

プロフィール

永峰 高志 [ヴァイオリン]

東京藝術大学卒業後NHK交響楽団に入団。第1ヴァイオリン次席奏者、第2ヴァイオリン首席奏者として活躍する。2012年NHK交響楽団より同団への功績が認められ第32回有馬賞を授与される。2015年同団を退団する。

現在、オーケストラとの共演でソリストとして、またウォルフガング・サヴァリッシュ、ペーター・シュミードル、ヴェンツェル・フックス各氏との共演等で室内奏者としても活躍している。コンサートマスターとしても、新日本フィル、仙台フィル、山形交響楽団、N響メンバーによる室内合奏団等に客演し好評を得ている。

これまで国立音楽大学教授、洗足学園音楽大学客員教授、東京藝術大学非常勤講師として後進の指導にも当たる。その指導はヴァイオリン奏法だけにとどまらず、オーケストラスタディ、オーケストラ奏法にまで及び、門下からはミュンヘンフィル、NHK交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィルをはじめ国内外のオーケストラのオーディションに数多くの合格者を輩出している。

2010年より岩手県久慈市文化会館(アンバーホール)の芸術監督も務め、数々の公演をプロデュースし成功を取っている。

2020年7月マイスター・ミュージックより新録音「ロマンス」をハイレゾ配信、CD、アナログレコードの3種類のメディアで同時リリースし、新聞、音楽誌、オーディオ誌など数多く取り上げられ注目を集める。

使用楽器：ストラディヴァリウス1723年製「ヨアヒム」
(国立音楽大学より貸与)



久元 祐子 [ピアノ]

東京藝術大学卒業、同大学院修了。19世紀初頭のピアノを多く所蔵し、歴史的楽器の演奏会や録音にも数多く取り組む。2011年ウィーンでのリサイタルはオーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾り、ペーゼンドルファー本社(ウィーン)とオフィシャル・アーティスト契約を結ぶ。イタリア国際モーツァルト音楽祭に度々招かれリサイタルを開催。ウィーン放送響、ラトヴィア国立響、読響、新日本フィルなど内外のオーケストラと多数共演。「優雅なるモーツァルト」(毎日新聞CD特選盤、レコード芸術特選盤)などCD14作をリリースし、「ベートーヴェン：テレーゼ、ワルトシュタイン」はグラモフォン誌上「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を受ける。團田高弘賞、毎日21世紀賞などを受賞。著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)など多数。国立音楽大学及び大学院教授、ペーゼンドルファー・アーティスト

西浦 詩織 [ヴァイオリン]

香川県高松市出身。高松第一高等学校音楽科、東京音楽大学卒業。多数のコンクールで第一位、聴衆賞など特別賞を受賞。バッハやヴィヴァルディ、シベリウス、メンデルスゾーンなどのヴァイオリン協奏曲をオーケストラと共演。ギターとのデュオ「風の旅」として、オリジナルCDを3枚発売中。ピアノとのデュオ「びろあり」では、2017年より全国ツアーを開始し全国8都市を2度巡るなど、ソロ、室内楽、オーケストラなどで幅広く活動している。



ラ・レゾナンス・アンサンブル

香川県ゆかりの弦楽器奏者によるアンサンブルグループ。2005年に結成。「レゾナンス(響き)」に込められた思いとともに、弦楽器特有の美しい響きやアンサンブルの楽しさを知っていただくため、定期演奏会を開催するほか、学校、福祉施設、イベントなどでも演奏活動を行なっている。広く知られている名曲から比較的馴染みの少ない曲まで、幅広いレパートリーを持つ。

